

**“Skeletal scintigraphy and advanced imaging techniques in equine orthopedic diagnostics –
practical insights from a german equine clinic.”**

馬の整形外科疾患に対する骨シンチグラフィと高度画像診断

～ドイツのウマ臨床現場からの実践的知見～

Dr. Sahra Sielaff ,DVM, PhD, Pferdeklinik Bargteheide

Pferdeklinik Bargteheide は、ドイツ北部のハンブルク郊外にあり、国内外から多岐にわたる年齢・品種のクライアントが訪れるウマ専門の二次診療施設です。診療内容は、エコー検査やレントゲン検査、運動時内視鏡検査などの一般検査や、ウマの購買前検査、歯科処置やカイロプラクティックといった一般診療に加え、骨シンチグラフィ検査、立位 MRI 検査、CT 検査、および手術といった二次診療も実施しています。本病院では、創設者である Dr. Werner Jahn が 1993 年にヒト用のガンマカメラをウマ用に導入して以降、30 年以上に渡って骨シンチグラフィ検査の実績を積み重ねており、現在も毎週 10 頭程度の検査を実施しています。

Dr. Sahra Sielaff は、同院に 7 年間 Veterinary technician として勤務後、ベルリン自由大学で獣医学を学び、卒業後は再び同院の獣医師として勤務しています。現在、診療実務者の中心として活躍されており、高度な画像診断技術を駆使したウマの整形外科分野における跛行診断とその治療に深い知見を持っています。特に、骨シンチグラフィ検査においては、同院の検査責任者として多くの症例を経験しているだけでなく、ウマ臨床に用いる放射性医薬品を比較した論文も執筆しています。また、ブラジルのウマ動物病院におけるガンマカメラ導入の際には、現地での立ち上げや検査体系構築に尽力された経験もあります。骨シンチグラフィ検査では、放射性同位元素（テクネチウム）で標識したビスフォスフォネート製剤を投与することで、骨折など骨代謝が活性化している領域から多くのガンマ線が放出されるため、ガンマカメラを用いてその部分をホットスポットとして画像化することができます。Pferdeklinik Bargteheide では、通常のレントゲン検査では描出できない上肢部の疲労骨折や体幹部の病変を特定する際に限らず、下肢部に病変が認められない症例や騎乗者のみが違和感がある症例などにおいて、病変部位を絞り込むために骨シンチグラフィ検査は活用されています。

本講演では、ドイツにおけるウマの画像診断の実態についてご紹介いただき、特に、骨シンチグラフィ検査を活用した跛行診断と MRI や CT を用いた確定診断に至るまでの追加検査とその治療について症例紹介を交えて詳しくご紹介いただきます。